

令和5年度 第1回帯広市総合教育会議

1. 令和5年12月21日 木曜日 15時 ～ 16時
総合教育会議を帯広市役所11階 第6会議室に招集する。

2. 本日の出席者

帯広市長	米	沢	則	寿
教育委員	田	中	厚	一
教育委員	藤	澤	郁	美
教育委員	佐々木	しゅり		
教育委員	柳	川		久

3. 本日の議事日程

- (1) 協議事項

おびひろ動物園の役割と魅力アップに向けた取り組み

4. その他

1. 開会

米沢市長)

- ・本日は動物園をテーマに意見交換を行いたい。子どもたちにとって動物園を訪れることは、楽しみながら動物とふれあうことで自然に関心を持ち、命の尊さを実感するなど、成長する過程において、大切な気付きを与えるきっかけとなるものと考えている。
- ・おびひろ動物園では、動物への興味から、生態系や自然環境といった様々な事柄を学習する学びの場として、動物とのふれあい、飼育体験、ワークショップを開催しており、多くの利用がある。
- ・今年度は、開拓の担い手であった馬の展示施設として馬ふれあい舎を整備したほか、キリン舎の整備着手や、寄贈を受けたビジターセンターもオープンに至るなど、飼育や展示環境の充実も進めている。委員の皆様には、帯広市の教育振興のために、幅広い視点から、忌憚のないご意見をお願いしたい。

2. 協議事項

○おびひろ動物園の役割と魅力アップに向けた取り組み

事務局)

(資料の説明)

米沢市長)

- ・委員の皆様から、おびひろ動物園の役割と魅力アップに向けた取り組みということで、ご意見を伺いたい。

佐々木委員)

- ・12月2日の馬ふれあい舎のオープニングセレモニーで馬もじっくり見させていただいた。小さい子から大きい子までたくさん子ども達に来ていた。セレモニーの後、動物園を見て回ったが、いたるところに子ども達がたくさんいて、うれしそうに楽しそうに見ているのを目にして、懐かしさを覚えた。2年ほど前に中学生の子どもを連れて来たが、食い入るように動物を見たり、新しく導入されたキッチンカーに並んでクレープを買ったり、楽しそうな様子を見て、連れてきて良かったと思った。様々な展示やクイズなどもあり、いろいろな世代に向けて工夫されていると思った。近年、動物園は娯楽施設から教育施設にシフトしてきていると言われていたが、誰もが楽しめるように工夫するということが大事であると思う。

- 動物園の役割である娯楽・教育・研究・種の保存の4つの役割の中において、娯楽要素が後退し、動物は野生で観察するのが1番良いのではないか、種の保存や研究は動物園でなくてもできるのではないかといった、動物園そのものの存在について疑問を投げかけるような意見もよく見る。動物福祉の観点からも反対する意見は理解できるが、役割以上の価値があることを実際に回ってみてよく分かった。
- 動物園には動物に直に触れあうことの喜びや大切さがある。目が合い、息遣いも聞こえる、匂いも感じられる、物を食べているところを間近に見て、映像では見るができないライブ感がある。人間と同じように息をして物を食べている、より身近な同じ生き物として感じる実感が得られるのは、動物園でこそ味わえるものだと思う。そこで得られる多幸感は娯楽を超えた価値があり、想像力や教育に繋がるのではないかと思う。思い立ったらすぐに行ける身近な場所で、子どもから大人まで楽しめる場所があるという価値。コミュニティにとっても、大きな意義があり、これからも続いて行って欲しいと思う。
- 誰でも気軽に学べる場所という教育施設の面でもアクセスのしやすさは大事。帯広畜産大学との連携で、専門家による監修を受け、動物を見た時のうれしさや感動を学びにスムーズにつなげるような施設が用意されているのは教育施設として優秀である。
- また、新設されるキリン舎では、動物の目線で見ることができるよう設計されていて、目が合ったり、食べたりするのを間近で見ることで、より動物に共感を持ちながら見学できる施設が増えることに期待をしている。

米沢市長)

- 広報おびひろの中で、スノーピークの社長と新春対談を行った。そこで出たキーワードが「楽しい」「近い」の2つ。十勝・帯広はすごく面白いところだという話をしていただいた。日高山脈が国立公園に指定されれば、空港から数十分で行くことができる国立公園は世界中どこにもないという話もしていただいたが、人生を生きていく上で何が大切かという話の中では楽しむことだと仰っていた。全くその通りで、楽しいことがあるからいろいろなことをやり続けられる。使命感などもあるけれども、楽しむことが重要だという話で盛り上がった。
- おびひろ動物園は、行って疲れてしまう動物園ではなく、楽しく帰ってこられて、身近に感じられる、それぞれの世代に向けた楽しさを提供することが大切である。
- 以前、私がイギリスに駐在することになった際に、犬を飼いなさいと言われた。ジャックラッセルテリアという犬を飼ったことで、いろいろなことを学んだ。まず、体温がある、怯えて震えるなど、動物と一緒に生活をすることで得られ

ることは多い。動物と接することはとても大切で、目と目を合わせて、こちらから勝手に話しかけてコミュニケーションを取っている。帯広市はそのようなことができる素晴らしい動物園が身近な場所にある。このような多幸感を市民の皆さんとどうやってシェアしていけるか。そういった空間をこれからも作っていかれたらと思う。

- おびひろ動物園は帯広畜産大学や企業にも関与していただいて、市民と共同でまちづくりを行っていく特徴的な場所となっている。

柳川委員)

- 北海道内には4つの動物園があり、それぞれ個性がある。おびひろ動物園では北海道や北方圏の動物や家畜を飼育することを決め、そのこと自体は間違いではなく、良い方向に向かっている。個性がなければいけないわけではないが、あまり偏っても寂しいと思うので、スター性のある動物も欲しい。動物園は生き物とその生き物を扱う人がいるので急激に物事や環境を変えるべきではない。理に合った変革をして、無理をしない程度にどうやって続けていくかということが大切。
- 北海道の動物の中でも、特徴的かつ、いろいろな面で問題が起きている動物も展示して、一緒に考えるということも大切だと思う。今現在ではヒグマやシマフクロウだが、実はシマフクロウは飼育の個体が余剰気味で、引き取って欲しいといった声もある。どちらも受け入れ態勢が大変なので、急にとは言わないが、そういった動物の飼育も視野に入れていくことが望ましい。
- 獣医師はいるが、教育施設として、ある程度特化した人がいてくれた方が教育・保護・繁殖の面で望ましいのではないか。
- 16万人の人口に対して年間16万人の入場者数があるというのはすごいこと。そこを保てるように運営していくことが望ましい。

米沢市長)

- 何か目立った動きがあるとみんなその方向に追随してしまい、そこで競争してしまうことが世の中で起きている。
- 人口16万人のサイズ又は十勝で見ると30万人の中にある動物園として、どういことができるのかという謙虚な視点が重要である。
- どこかに無理があったりするといけない。おびひろ動物園の方向性として十勝の歴史や文化との親和性を意識しているのもそういうことであろう。
- 人材も重要であり、動物園の職員も魅力の1つ。彼らが動物園の魅力を上げてくれている。動物に対する愛情、専門性などがおびひろ動物園の雰囲気、価値を作っている。

- ・急激な変化は良くないと話があった。急激な変化は必ず反作用がある。この地域のすごさは、ゆっくりとした変化であるが諦めないで最後まできちんとやり抜くことである。

藤澤委員)

- ・緑ヶ丘公園には4つの施設がある。この4施設が隣接して様々な役割を果たしているが、今後は複数の施設を利用してもらうための何らかの工夫が必要と考える。動物園の帰りに児童会館に行ってみようだとか、家族で美術館に行ってから動物園に行ってみようなど、複数の施設に行きやすい環境づくりがなされると全体の施設利用者数の底上げにも繋がるのではないか。
- ・動物園にばん馬が飼育されるのであれば、百年記念館に展示されている昔の農機具をばん馬とタイアップすることで歴史を学ぶことができるのではないか。施設間内の垣根を超えた様々な意見を出し合えば、今まで以上に楽しい空間や学習の場になっていくのでは。
- ・おびひろ動物園では、魅力アップに向けて、令和2年度から令和11年度までの10年間を実施期間として「魅力づくりのための5本の柱」に沿った取り組みの方向性が示され、効果的な整備や運営を進めていると感じている。十勝帯広の特色を生かした展示、地域に根差した学習機会の提供、子育て世代と高齢者に優しい施設整備、十勝らしい食の充実、トイレや休憩所などの整備、馬のふれあい舎の整備、帯広畜産大学や企業との連携・協働、キッチンカーの導入などにより、着実に遂行されていると思う。
- ・自身も動物園によく行くが、動物の成長を日々見るのが楽しみ。そのような入場者もいると思われる。
- ・ソフト面においては、博物館相当施設として、ふれあい教室や飼育体験、おびZOO寺子屋などの教育事業に取り組んでいる。これら事業を継続的に発展させていくためには、飼育員の専門性が必要と考える。経験ある飼育員の他部署への異動等により、飼育及び教育事業のノウハウの蓄積や継承に支障が生じる可能性があることが課題である。職員の雇用形態は崩せないのかもしれないが、これから教育を重視するのであれば考えていただきたい。
- ・老朽化した大型遊具の更新・整備について、金銭的な問題もあるが、動物園は娯楽的意義を求める来場者もあり、遊園地としての役割も果たしていると思われるので、今の設備の継続を求めたい。

米沢市長)

- ・道内他都市の動物園でも大型遊具はなくなってきており、永続性という問題から、更新は難しくなっている。バーチャルやデジタルの時代においてリア

ルでアナログな遊び場が屋外にあることが価値を持ち始めており、おびひろ動物園は親の代から子の代まで同じ経験ができています。

- ・美術館と動物園の連携や、百年記念館・児童会館・動物園の3館共通利用券の発行を通して相互の利用者増を図っている。
- ・現在では副業など、一つのことにとらわれない働き方が多様性に繋がっている。市役所の採用においても、公の行政サービスを提供する上で、専門性や一般性との繋がりを考えていかなければならない世の中になってきた。

田中委員)

- ・40、50代の頃に初めて犬を飼って、生で見るものとテレビで見るものとは全く異なり、物体と命がそこにあり、どんどん家族化していく中で、動物は日常生活に欠かせないものであると感じた。身近に動物園があるということに優位性があるとはっきりと言える。
- ・利用目的の中で療育目的が4%という数字を見て驚いた。高齢者のアニマルセラピーが動物園のある種のインセンティブになっていくと思う。移動図書館ならぬ、移動動物園があってもよいのではないかと思う。
- ・岩野泡鳴の「断橋」という作品の中で、泡鳴が馬に乗っている時に熊に出会い、馬と一緒に驚き、その時に一体感を感じたという場面がある。また、吉田十四雄の「百姓記」という作品の中で、開墾の際に馬にプラウを着けて農作業をすると、馬のおならを避けることができないことから、馬を道具として扱っているけれども決して道具ではなく、生き物であるという馬との関わりを描いた場面もある。そういった馬に関する小説や、あるいは馬に関する様々な絵本などと、「馬ふれあい舎」など教育施設ならではの取り組みができたら面白いと思う。
- ・十勝・帯広は動物との関わりをもった書物や漫画など、最大限に生かしたらよいのではないかと思う。

米沢市長)

- ・動物園が生活の近くにあるということの大切さを改めてお話いただいた。動物を見ること、感じることで多様性を考えるきっかけになれば良いと思う。高齢者にとっても、単なるふれあいだけではなく、動物園に行くことで家族との会話のきっかけができて、会話に広がりも生まれる。動物園に行くと心が穏やかになる。動物を中心にして子どもから高齢者が集まれる場所が身近にあることは本当に良い環境だと思う。

3. その他

米沢市長)

- ・おびひろ動物園の魅力アップに向けたこれまでの取り組み内容を確認した上で、皆様に様々なご意見をいただいた。意義や効果を改めて考える良い時間であった。動物園は教育委員会が運営しており、その特徴を生かして、学びや交流などの視点で動物との体験機会の充実を図っていくことが重要だと感じた。
- ・また、市民に愛される、帯広らしい、地域に根差した動物園であることを継続していかなければならない。おびひろ動物園の魅力向上、緑ヶ丘公園全体の価値の高まりはリンクしていると思っている。まだこれからとなるが、動物園を含めた生涯学習エリアをこれからどうマネジメントしていくのか、市と教育委員会が連携を取りながら進めてまいりたいので、皆様には引き続きご協力をお願いしたい。
- ・その他なければ、令和5年度第1回帯広市総合教育会議を終了する。